

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	自然緑地計画論演習 [Natural Open Space Planning Practice]				実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	710041	授業形態	演習	単位数	4	配当学年	2年次	
教員氏名	平岡 直樹				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP3(5)		
授業概要	<p>本授業の目的は、造園家として、またランドスケープや環境の専門技術者として、自然緑地を扱う上で必要な技術や知識に関して演習を通して学ぶことです。</p> <p>自然公園など広域を対象とした図面、縮尺の小さな地図を読み取る技術の修得や表現方法を身に付けます。さらには、設計事務所やコンサルタント業務の実情の把握なども同時に行います。</p> <p>「自然緑地計画論」の知識を基礎としてより実践的に身につけるための授業です。</p> <p>建設コンサルタント(都市計画及び地方計画部門)にて実務経験を有する教員が、自然環境の調査、計画に関する業務の実例について、写真や図版を用いながら解説します。</p>							
関連する科目	造園学概論を事前に、自然緑地計画論を同時に受講することが不可欠です。履修後は、景観論、都市計画論、都市緑地論、建築学概論を履修することが望ましいです。							
授業の進め方と方法	<p>毎授業でアクティブラーニング型の演習授業を行います。毎回新たな演習課題を提示します。1回の授業の構成は以下の通りです。授業の冒頭において、課題の概要を提示します。各自またはグループで相談、作業の分担を行い課題に取り組んでもらいます。不明な点があれば質問を受け付けます。授業の終盤に提出し、必要に応じて修正を指示します。基本的には、授業内で課題を完成させてください。</p>							
授業計画	<p>第1回 ガイダンス① 演習の進め方、目的等の紹介をします。</p> <p>第2回 ガイダンス② 演習内容の紹介 参考文献紹介を行います。</p> <p>第3回 地図の基礎演習① 地図の縮尺の違いを学びます。</p> <p>第4回 地図の基礎演習② 簡易な土地利用図・植生図の作成を行います。</p> <p>第5回 空間特性(立地条件)から見た自然緑地の分類① 言葉の定義と地形図の対応関係を学びます。</p> <p>第6回 空間特性(立地条件)から見た自然緑地の分類② 自然緑地の領域検討図の作成を行います。</p> <p>第7回 データ読み取りの基礎演習① 実体視鏡の使い方を学びます。</p> <p>第8回 データ読み取りの基礎演習② プラニメータの使い方を学びます。</p> <p>第9回 自然緑地と地形① 自然緑地の空間特性別分類図について学びます。</p> <p>第10回 自然緑地と地形② 自然緑地の空間特性別分類図の作成を行います。</p> <p>第11回 自然緑地と地形③ 自然緑地の横断面図について学びます。</p> <p>第12回 自然緑地と地形④ 自然緑地の横断面図の作成を行います。</p> <p>第13回 自然緑地と植生調査① 樹木調査表と樹幹投影図について学びます。</p> <p>第14回 自然緑地と植生調査② 樹木調査表から樹幹投影図を作成を行います。</p> <p>第15回 自然緑地と植生調査③ 樹高・樹冠比較図及び樹高・胸高直径関係グラフについて学びます。</p> <p>第16回 自然緑地と植生調査④ 樹高・樹冠比較図及び樹高・胸高直径関係グラフ作成を行います。</p> <p>第17回 自然緑地と標高① 自然緑地の標高図について学びます。</p> <p>第18回 自然緑地と標高② 自然緑地の標高図の作成を行います。</p> <p>第19回 人工林の実態を知る 宮崎大学農学部田野フィールド(演習林)にて実践演習を行います。</p> <p>第20回 人工林の施業を体験 宮崎大学農学部田野フィールド(演習林)にて実践演習を行います。</p> <p>第21回 自然緑地と等高線① 自然緑地の等高線模型について学びます。</p> <p>第22回 自然緑地と等高線② 自然緑地の等高線模型の作成を行います。</p> <p>等高線と実際の地形の関係や特性を視覚的に学びます。</p> <p>第23回 自然緑地と傾斜① 自然緑地の傾斜度図について学びます。</p> <p>第24回 自然緑地と傾斜② 自然緑地の傾斜度図の作成を行います。</p> <p>第25回 自然緑地と水循環(流域システム)① 流域界図について学びます。</p> <p>第26回 自然緑地と水循環(流域システム)② 流域界図の作成を行います。</p> <p>第27回 自然緑地見学会 近隣の自然緑地の見学会(山岳/河川系)① 現地説明を行います。</p> <p>第28回 自然緑地見学会 近隣の自然緑地の見学会(山岳/河川系)② 課題抽出と解決策の検討を行います。</p> <p>身近な自然緑地を訪れて、その評価を行います。</p> <p>第29回 プレゼンテーション技術の説明と準備を行います。</p> <p>第30回 プレゼンテーションと講評を行います。</p>							
授業の到達目標	<p>1)自然緑地について体系的に学び、自然環境や社会にどんな役割を果たし、どんな問題点を抱えているかを考える力を身につけ、さらにそれぞれが自らの自然観もより豊かにします。【専門分野の知識・理解】</p> <p>2)自然緑地にかかわる専門職業人として必要な基礎的知識や技術を学び、持続可能な循環型社会の実現に向けた課題発見と問題解決をはかるための実践的技術を身につけます。【専門分野のスキル】【課題発見・分析・解決力】【プレゼンテーション力】</p>							
授業時間外の学修	第1回目の授業で示す参考図書など自然緑地や自然環境保全修復技術に関する資料を授業前に読んでください。授業後に理解が曖昧な時は再度精読してください。また、自然緑地の成り立ちを理解し、自然緑地計画に関わる技術力を身につけるため、授業中に紹介する全国的に知られた自然緑地や、身近な自然緑地の計画に関わる資料や図版等を見ておいてください。予習復習2時間程度必要です。							
課題に対するフィードバック	課題は、提出前にチェックを受けてください。次回以降に返却します。必要がある時はコメントします。			評価方法	提出された課題の理解度、完成度、プレゼンテーションの程度で評価します。			
テキスト	授業中において配布する資料及び紹介又は指示する書籍							
参考書	第1回目の授業(ガイダンス)において紹介します。主なものの一部を以下に示します。①環境省編『令和元年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』、日経印刷、2019②石川徹也『日本の自然保護 尾瀬から白保、そして21世紀へ』(平凡社新書)平凡社、2001③森山、平岡他『ランドスケープアーキテクチャーの起点』ぎょうせい、2007							
備考								